カスタネット通信

カスタネット

2025年7月号

カスタネット通信7月号は、オギジビの補聴外来と６月末に山形市で開催された、第26回日本言語聴覚学会についてのおはなしです。

2024年補聴外来

おぎはら耳鼻咽喉科では、建物の窓に書いてある『難聴・補聴器対応』ということばの通り、難聴のある方の聞こえに合わせた**補聴器の適合**に力を入れています。耳鼻咽喉科医の**診察や聴力検査**の結果から、**補聴器の適応がある**とされた方に対して、何種類かの補聴器を用意し、その音の調整をしながら、**日常生活で補聴器を活用**できるよう試聴を進めていくのが補聴外来です。

これを読んでいるのは、今まさに補聴器を試聴している方、補聴外来に通われて補聴器を購入された方、家族の耳の聞こえを心配している方など様々だと思います(どれにも当てはまらない！という方も)。「補聴外来に通っているのはどんな人？」「みんな補聴器を買ったの？」「どんな補聴器を買ったの？」もしかしたらそのような疑問があるかもしれません。2024年のデータを示しながら、補聴外来について説明したいと思います。

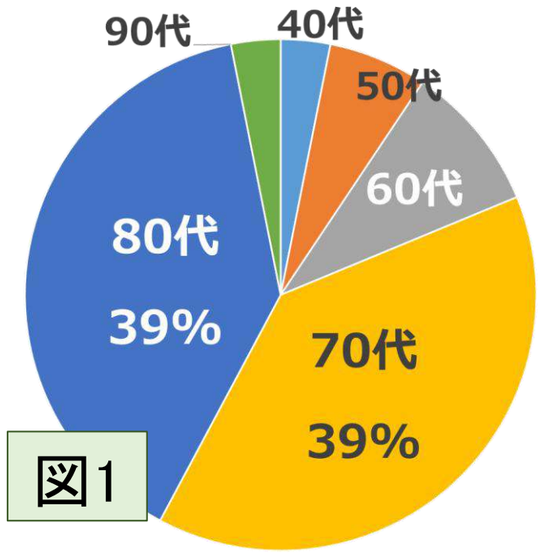


図1

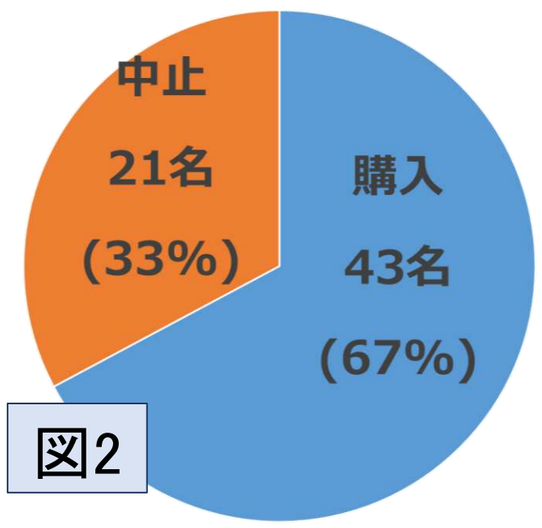


図2

2024年に補聴外来で**初めて**補聴器を試したのは64名でした。**図1**は64名の年齢内訳です。40代～90代まで、さまざまな年齢の方が試聴されましたが、**70代・80代の方が最多**でした。

図2に補聴器を購入/中止した方の数を示しました。約3割の方は装用を断念していました。理由は「**効果を実感できない**」「**音の違和感に慣れない**」「**自分にはまだ早い**」 などでした。1度試聴を中止しても、数年後に再度試される方もいらっしゃるので、まずは「**自分の聞こえに目を向ける**」「**効果があるか試してみる**」ことが重要です。

購入した43名の方は、**平均12週の試聴期間中**に**平均3種類**の補聴器を試していました。多くの方が購入までに隔週で、**6回程度通院**していたことになります。

図3は43名の方が購入した補聴器の形です。耳の上にかけて使う「**耳かけ型**」を選択された方が最多でした。「receiver in canal」を略した「**RIC**」も耳かけ型の一種です。RICは増幅した音を出すレシーバーを耳の中に入れる補聴器なので、本体が小さくなります。目立ちにくいのですが、部品が細かく扱いにくいという短所があります。試聴前には「目立たない方が良い」「マスクや眼鏡の邪魔にならない方が良い」とおっしゃる方が多いのですが、耳の中にすっぽり入れて使用する「**耳あな型**」を選ばれた方は少数でした。

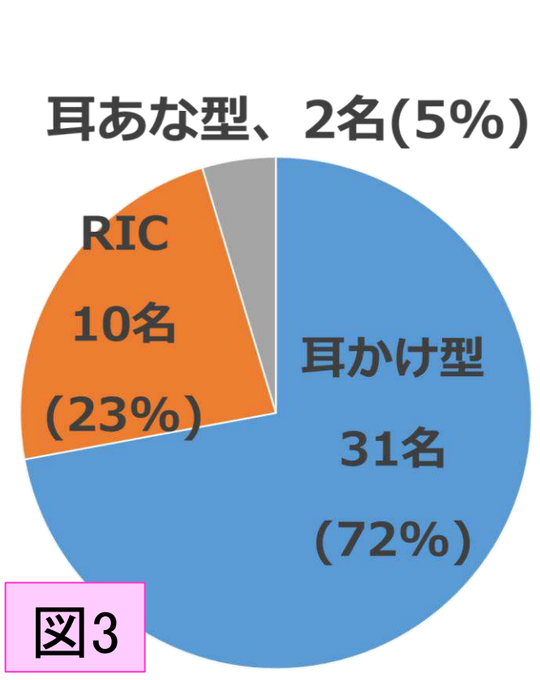
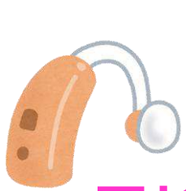
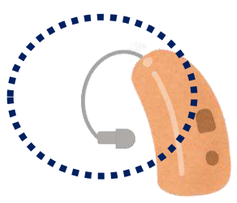


図3



耳かけ型



RIC

耳あな型

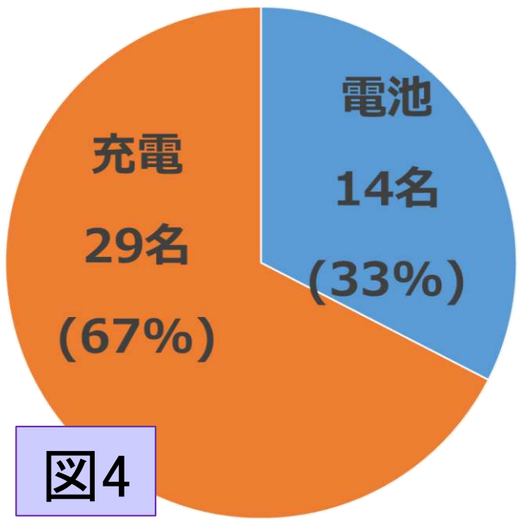


図4

購入した補聴器の電源が充電式か電池式か、その割合を示したのが**図4**です。電池を買う、捨てる等の手間のかからない**充電式を選択**した方が約7割でした。

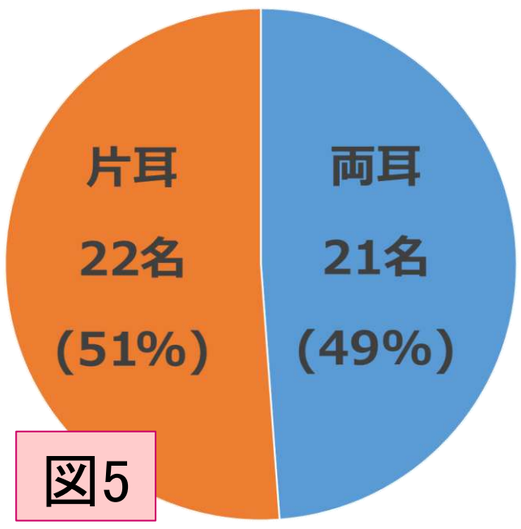


図5

聴力に左右差がない場合、まずは両耳に試聴します。試聴中に両耳に装用した方が聞こえが改善するのか、片耳でも十分なのか、本人が判断します。結果は**図5**の通り、**両耳装用と片耳装用が半々**でした。

以上が2024年の補聴外来のデータです。補聴外来のイメージをつかんでいただけたでしょうか。身近に聞こえについて不安を抱いている方がいらっしゃったら、ぜひオギジビの補聴外来をご紹介ください。

日本言語聴覚学会

6月27日(金)・28日(土)に山形市で開催された、第26回日本言語聴覚学会に参加しました。山形市を訪れるのは、2022年10月に日本聴覚医学会に出席した以来です。そのときは山形新幹線で行きましたが、今回は空路で向かいました。ちょうど山形新幹線が車両故障の影響で東京からの直通運転が1日2本！という時期だったので、飛行機にして良かった、と思っていました。ところが山形空港上空まできてあとは着陸のみとなった時に、機長から「空港敷地内にクマが侵入したために、山形空港が閉鎖された。今、空港が開くのを旋回して待っているが20分ほどで状況が変わらなければ燃料が切れるので羽田に戻る」というアナウンスがありました。え…羽田に戻されたらそこから東京駅に出て、新幹線で福島まで行って、乗り換え…大変…。クマ！と思いましたが、ギリギリ安全が確保されたとのことで約30分遅れで無事着陸できました。結局その後またクマが出現したらしく、山形空港発着の10便が欠航したそうです。

オギジビは木曜休みなので、前日から山形入りしサクランボを満喫しました。空港近くの東根市は「さくらんぼ生産量日本一」かつ「佐藤錦発祥の地」だそうです。

山形名物　肉そば

さて、学会では「高齢難聴者における補聴器購入費助成の利用状況」というタイトルで演題発表をしました。相模原市で2022年の夏から開始された高齢者補聴器購入費助成を、オギジビの補聴外来に通われた方がどれくらい利用したかということの報告です。相模原市に住民票がある65歳以上の91名中、この助成を利用したのは19名(21%)で後期高齢者、女性の比率が高いという結果でした。全国的にはこのような助成制度が無い市区町村もまだまだ多く、あっても助成条件はさまざまです。相模原市の助成制度も広報の仕方や対象の基準など、今後改変される可能性もあるのかもしれない、と考えました。

聴覚分野のシンポジウムや講演では、高齢者の難聴に対し、医官学産(医療、官公庁、大学、産業界)が連携することが重要という話題が多くありました。多職種連携ということを心にとめながら臨床に取り組みたいと思いました。